

名所

タル風儀也、能キ人出來ル事希ニシテ、惡事モスクナク善事モ亦希ナリ、然ドモ是國之人ハ氣少キ故、ツレナクシテ不敵ナル意地ハ少モコレナシ、

〔日本鹿子十二〕同國防○周中名所之部

室積 竈戸 むろせき海邊也、普賢井の堂あり、無雙の景地也、俗に竈戸をはらみの關と云、略○中

岩國山 安藝國いつくしまより、海上五里ばかり西に、小方といふ宿より、小山ひとつ越て、をせ川と云西より、當國のうち也、をせ川より南へ大山あり、これを岩國山と云、海邊もいわくにのうち也、○中略

祝島 大島 可良浦 勝間浦

〔西遊雜記二〕廿三日、室積を一見せんとて左道へいり、宿なくして大ひに屈し、稗田村といふ所のはにふの軒に夜をあかしぬ、廿四日、室積にいたる、此浦はいたつて古き所にて、聖空上人の事跡世にいふ、普賢菩薩遊君に化して、聖空上人に對面せしと云地にして、今に大黒屋惠比須屋といふ倡家残りて、聖空上人の時代より續きし家なりと、土人のいひ傳ふ事なり、風景能浦にて、江の浦といふ處に、元信古法眼の事也筆捨松と稱す名木も、有り、○下略

〔一宮巡詣記下〕石見國一宮安濃郡物部神社圖

十七日朝元祿九年十一月岩國今津町へ上り、是より城下迄一里ほどあり、錦見町と横山町の間、岩國川そり橋五ツ珍敷橋也、

〔西遊雜記一〕廿日、岩國にいたる、世に名高き錦帶橋十露盤橋といふ也と一見せしに、よくエみしもの也、○中略

岩國山は周防の名所にて、昔は大山楓の樹ばかりにして、紅葉黃にして錦の如し、このゆへを以て岩國川を錦川とも稱し、錦見の里、錦帶橋、岩國山の紅葉より名付しもの也、玄かるに今は名のみにて、山を開きて畑となし、楓木一樹もなし、おしむべき事ながら、花より團子なるべし、